

「観劇サポート」とは！

2月7日(木)13:00~15:00 センター棟 101号室

[講師] 廣川麻子 (NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク (TA-net) 理事長)
美月めぐみ (演劇結社ばかりばかり 女優)
鈴木大輔 (演劇結社ばかりばかり 主宰)
[モデレーター] 間瀬勝一 (公益社団法人全国公立文化施設協会 アドバイザー)

○間瀬氏 前説をさせていただきます。時間まであと5分ほどございます。

皆さんにお配りしたレジユメの一番最後のページを見ていただけますか。上を外していただければあれなんです、こういうQRコードがあります。これをお手持ちのiPadなりスマホで読み込んでいただきますと、ここの後ろに今UDトークという音声文字化してくれるソフトが動いて、それが皆さんのお手元のスマホやiPadで、これと同じものが皆さんのところで見られます。試してみてください。その前にUDトークをインストールしないといけないんですね。UDトークで検索して、フリーソフトですので、ダウンロードしていただいて、QRコードを読み込んでいただければお手元で見ることができます。スマホやiPadを使うのが苦手な方はこちらのペーパーをご覧ください。このシステムは芝居とかさまざまところで使われ始めておまして、今日はそれを体験していただきたいと今日はUDトークをこちらに入れてやっていただいております。ご体験をいただければと思います。

それから、先ほどから受付でいろいろお声がけさせていただいていますが、まだこれからこちらの会場に来られる方がいらっしゃいますので、テーブルなるべく3人掛けでお詰めいただいております。今日満席が予想されておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

大変お待たせをいたしました。

それでは、ただいまから「観劇サポートとは」ということで、2時間ほど皆さんと一緒に体験をしたりお話を伺ったりしたいと思います。

今日の主な流れでございます。まず最初に、全国公立文化施設協会が行いました劇場・音楽堂等の情報バリアフリー化に向けた最適システムの構築に関する調査・検証事業、すみません、長くて。それをこの3月末で報告書をつくって出すことにしておるんですが、その概要、中間報告のようなことをさせていただきます。その後鑑賞サポートに取り組もうと思っていられる館に情報提供して、聴覚障害の場合、視覚障害の場合の当事者の、サービスを受ける側のご意見を聞いていただきたいと思っています。事例発表をしていただくお二人には、実際に演劇、舞台のお仕事にかかわりながら感じる課題やこのようになるといいなと思うこと、そういったことを今日お話をいただき、皆さん方が鑑賞サポートということをやろうとするときのヒントになればというふうに思っ

ております。

皆さんからのご質問等があれば最後にそこで伺い、お答えができればいいなと思います。時間としては3時ということになりますので、その辺は、時間がないときはすみません。紙なり音声でご質問を受けて、後ほどお答えするというのもできればと思っております。

では、時間がないので、私のほうから冒頭の調査報告を手短にさせていただきます。

全国公文協が何でこういう調査、それから検証というものをやろうと思ったかということなんです。やはり劇場・音楽堂等に、障害や、それから言語上の障壁があります。誰もが文化芸術を楽しめる、親しめる場としての劇場・音楽堂がある。我々の勤務している市民会館、ホール等で多様な鑑賞ができるような機会をつくるべきではないのかと。特に今、法整備の中でかなりその辺が進んでおります。この情報バリアフリーのシステムの現状と課題を今日登壇いただきます廣川さんも含めてみんなで実体験をしてレポートをしました。その報告書を来月末までに纏める作業をおこなっております。

今回の調査では、公文協加盟、以下国内の施設2,198施設にアンケート調査をおこないました。29.6%の650施設からお答えをいただきました。施設利用の状況です。障害のある方の施設の利用状況は、年に数回が約4分の1、月に1から3回がこれも4分の1。約半分の施設が月に1回から3回程度となっているんです。こんなに来館されている人たちに我々何のケアもできていないんじゃないかなというふうに気づいていただければうれしいと思います。

来館理由は舞台鑑賞がほとんどです。82%です。貸し館で利用の方が48%、約半分お見えになっていますね。皆さんの施設どう対応していますか？車椅子用の駐車場があります、車椅子用の客席を用意しています、多機能トイレ、昔は障害者トイレとかいろいろと言い方をしていましたけれども、多機能トイレが、これも80%。それも用意出来ていないないホールもあるかもしれません。それはハードの面でのバリアを解消するという大事なことがあるんですが、それは、この数字から見てわかるように、80%ぐらいの施設で達成されてきています。それから、交通機関がエレベーターとかエスカレーターとか、障害をお持ちの方へのケアがすごく進んでいると思いませんか。我々の劇場はどうなんでしょう。

あえてここで赤字を入れさせていただきました。後ろの方はちょっと読みにくいかな。補助犬同伴。単純に言うと、盲導犬を館内に、客席に入ってもらってもいいのか悪いのかという質問をしています。ここにいらっしゃる方は皆さん、当たり前だろう、全部入るだろうと思っていらっしゃるんですが、実は今回の調査でも15館が中に入ることはお断りしているという回答がございました。でも、よくなったんです。前回調査したときは、100を超える施設が盲導犬、客席に入れなかったんですよ。それから見ると、15に減ったということは、改善はしているんです。だから15

館がだめなのか、それ以外の、さっきの調査で600ぐらいあったわけですけども、600幾つが入れますと自慢をするのか、15が入れないと思うのかということだと思えます。

最後に、外国人の問題も調査項目にありました。利用状況がほとんどない、年に数回というのがほとんどでした。数字からは、来ないのか、行けないのか、ということを考える必要があります。要するに皆さんがバリアを張って、来にくくしているかもしれません。ホールへ来させないようなバリアが皆さんの中にあるのかなと僕は思っています。

今回の検証は5つのアプリケーションを選定しまして、我々委員と、それからその開催地の近くにいらっしゃる障害をお持ちの方、外国国籍の方に同じ演目に参加していただいて、アンケートをいただくという手法をとりました。これがそのアプリケーションの一覧です。今日はUDトークという字幕表示を行なっています。

モニターの方にご意見を頂きました。翻訳したものの内容はおおむね理解できた。タブレットが重くて見るのが大変だったというご意見もございました。

それから、鑑賞サポートがあったら劇場・音楽堂等で鑑賞したいですかという質問もしています。あれば行きたいという方の意見が多くございました。

今後の課題です。課題としては、導入のための予算措置の問題。それからもう一つは、導入の相談の窓口が必要ということです。例えば、都道府県単位で、アドバイスができるスタッフがいてほしいなと思っています。報告は以上です。

では、これから実際に鑑賞者であり演じ手でもある演劇結社ばかりばかりの美月さんにお話をさせていただければと思います。どうぞご用意をお願いいたします。介添えはご主人でいらっしゃいます鈴木大輔さんです。

目のご不自由な方への対応を見て頂ければ幸いです。登壇するまでのサポートをしていただきました。

それでは、美月さんにこれからお話をお願いをいたします。

○美月氏 座ったままでごめんなさい。

私、演劇結社ばかりばかりで役者をしております全盲の美月めぐみと申します。美月めぐみ、おわかりかと思いますが、芸名でございます。本名は、鈴木大輔の妻ですので、鈴木と申します。

簡単に自己紹介ということなんですが、私は演劇結社ばかりばかりという劇団を、12年前に立ち上げまして今まで活動してきています。うちの劇団のコンセプトというか理念が、見る側も演じる側もバリアフリーという、標語みたいな感じになっていますけれども、そういうことでやらせていただいております。今日の今から話す中で追い追いそのあたりも触れていきたいなというふうに思っております。

私自身、生まれつき目が不自由で、中学生のときに学校の行事の一環で劇団民藝さんの「奇跡の人」を見に行きました。それがきっかけでほかの皆さんと一緒に同じ空間でちょっとくすっと笑ってみたりとか、ほろっと涙を流したりという心地よさを感じるようになりました。周りの人が泣いてることも、別に見ているわけじゃないけれども、鼻をすする音とかそういう雰囲気伝わってきますね。花粉症の季節は別ですけども（笑）。そういう感じで伝わってくるものがいっぱいあります。実際、幼いころ実家のテレビを見ていてお笑いとかもすごく好きだったんだけど、一緒に弟と鑑賞していると、弟だけが大笑いしてるということが多々ありました。当時、「8時だヨ！全員集合」なんていうのがありまして、私はセリフのところでは笑えるんだけど、やっている動作がおもしろい、アクションがおもしろいところなんかでは、私はついていけないので、何やってるの、どうなってるの、どうなってるのと言うと、私よりも4つ下の弟ですので、まだボキャブラリーもないのに必死になって姉の私に説明してくれるんですね。そうすると、やっとこっちがわかったころには、弟のほうの説明するのに疲れて白けているという状況がありまして、これはかわいそうだなというふうに幼心に思ひまして、もうそういう説明をしてもらうのは諦めていたんですね。それが大人になりまして、ほかの人たちと同じタイミングで音声ガイドというシステムというか、舞台の説明ですとか、それから映画、特に映画の画面説明などをしてもらうということによって、同じタイミングで笑ったり泣けたりできるという瞬間を経験しまして、そのときは内容がすごくおもしろかったのに、笑いながら感動して泣いちゃいました。そのぐらい私にとってはほかの人たちと同じ空間で同じタイミングで感動できる、笑ったり泣いたりできるということは大きな大きな発見というか体験でした。

そんな体験をしつつ、私自身も舞台で何かやってみたい、芝居では、見えない役に徹していれば無理なく演技に集中することができる。見える人に混ざって同じように演技しようと思ったら、それはやっぱり無理があると思うし、お金を払って見ていただく皆さんにちょっと学芸会のお母さんみたいなハラハラする気持ちにさせてしまっただけでは、これはいけないと思ったので、立ってやるお芝居のときには見えない役に徹しています。そのかわり、点字を使って朗読するときには何の役にもなれるということで、ゆりかごからおばあちゃんまで、そして人外のものまで何でもやります。そういうことで、私自身が自分の表現力を生かして、表舞台に出て行くことによって何か元気になれる人たちというのもいるんじゃないかという気持ちもありまして、この活動を続けてきています。

そういう活動を多くの視覚障害者自身にも、当事者の人たちにも楽しんでもらいたい、それだけじゃない、聴こえない人にも楽しんでもらいたいという気持ちと、それから私自身がほかの演劇ですとか音楽ですとかそういうものを楽しみに行ったときに、ちょっとバリアだなと感じていることとか、そういうことをいろいろひっくるめまして、自分で、誰でも見に来やすい、一緒に楽しめる

空間というのをつくっていききたいなということで、日々考えていこうということで活動しています。

ちょっと自己紹介的なところが長くなっちゃったんですが、忘れちゃうところだった。うちの演劇結社ばかりばかりの主宰でもあるんですけども、私の夫でいろいろサポートしてくれる鈴木大輔が今日一緒に来てくれています。こういう活動を一緒にやっていく仲間として、演劇に対する考え方なども一致するところが多かったので、パートナーとなりました。後ほど、頃合いで紹介します（笑）。

じゃ、ちょっとレジュメに沿ってお話ししていきます。

観劇・音楽鑑賞等における視覚障害者としてのバリアということで幾つか挙げてみました。まずは情報入手のバリア。これは告知の工夫が必要です。次、チケット入手のバリア。アクセスしやすい窓口の確保が必要です。移動のバリア。ガイドヘルパーの割引、劇場最寄り駅からの送迎誘導の手配などが必要になってきます。次、劇場内、開演前、休憩中のバリア。トイレ、カフェ、物販、客席間の移動、受付での対応、そして座席の位置の確認と確保とか、そういうのを全てサポートしてもらわないとできないことです。それから、今度は劇場内、観劇・鑑賞中のバリアということで、これは内容を把握していくためのバリアみたいなものをどうやって解消するかというと、開演前に舞台説明をするとか、舞台の模型を触察、つまりさわって観察する。それから、公演パンフレット等の閲覧サポート。読んでもらうとか。それから、上演中の音声ガイド。これは、今どういう状況にあるかということ言葉を説明するということですね。そして、終演後のバリアとして、やはり最初のところと同じくトイレの誘導とか物販買い物サポートですね。アンケートの代行記入なんていうのもあります。そういうところにいろいろバリアがありますよということを最初にまとめてみました。

まず、視覚障害者を迎える準備ということで、通年いつでも、特に何の配慮もできないような公演であっても、視覚障害者は想像力と勘を頼りに観劇、鑑賞します。そういうお客をいつでも受け入れられるように、場内だけでも移動のサポートがあるととても助かります。

本当は、これからこの後にお話ししていくような音声ガイドだとかがあるにこしたことはないんですが、でも、そういう公演じゃないからといってお客さんとして来てもらっちゃ困るなんていうふうに思われたら悲しいです。いつでも行って同じ空間でほかの人たちと一緒に楽しめる、生の舞台を楽しめるというのが一番なので、そこは理解していただきたいなというふうに思っています。できれば、誰でも対応できるよう、職員の方どなたでも対応できるように、できれば年に一度ぐらいのペースで職員向けの誘導研修など開催していただけるとありがたいなと思います。あと、そういうふうに受け入れられますよということを市とか区の広報等で時折告知していただきたい。本当に諦めちゃってる人も結構いたりするんですね。たまに、横のつながりでお友達同士で、あそこの

劇場に行ったらちゃんとサポートしてくれたらしいよなどという情報を聞いたりもするんですけども、基本的には主催者サイドから発信していただかないと、ちゃんと情報が伝わってこないです。

それから、バリアフリー、ユニバーサルサービスの公演を企画する場合、これは特に配慮したもののという意味ですね。あらかじめ実際に公演を行う側に舞台説明や音声ガイドに関する理解を求め、つまりホールでの企画じゃなくて、ホールを使って行うほかの劇団や音楽グループのプロデュース公演でも、劇団なりプロデューサーなりにそういう音声ガイドとかいろいろな舞台説明やりますよというようなことに関してご理解・ご協力をお願いする働きかけもしていただきたいなということです。

できる範囲で音声、点字などのパンフレットを作成する。当日、売り物になるものもあるし、売り物じゃなくて、ただ無料で配るものもあると思うんですけども、そういったものをなるべく広告以外の全文を掲載する形でできるのが理想です。うちの劇団なんかで配っているのはCDによる音声パンフレットと点字のパンフレットです。特に音声パンフレットには耳で見る写真とも言うべき出演者の肉声を入れられるといいと思います。この声の人がこの役の人なんだなというふうにイメージが最初につけられると、特に理解につながりますので。じゃ、ここで、うちの演劇結社ばかりばかりの公演、去年の11月に行った「チョットまってホッキー!!」という作品なんですけれども、これの音声パンフレットの一部を聴いていただきたいと思います。CDの準備よろしいでしょうか。

○OCD音声 「ホッキー役のカンノナオキです。イメージカラーは赤です。頭は天然パーマでセンター分け、もみ上げが長いです。Tシャツにポリエステル製で薄手のパーカーを着ています。下はジーンズです。足元は裸足に雪駄です」。

○美月氏 じゃ、この辺までで。

この後はパンフレットに記載している自己紹介の内容を読み上げてもらっているんですけども、こんな感じで見た目の説明というのをそれぞれのキャストが個人の声で入れてくれています。こんな感じの工夫をしています。

続きまして、来場以前のバリアを取り除くというところで、情報入手のバリア、告知の工夫が必要ということなんですけれども、視覚障害者は情報障害者でもあります。各自治体の広報紙はほとんどの場合、点字や録音物による視覚障害者への配布も行われています。まず、そこへ掲載する手配をしてください。それから、地方局の情報ワイド系のラジオ番組で告知してもらおうということも大変有効です。テレビも観ますけれども、やっぱりラジオで情報入手している視覚障害者は多いです。視覚障害者の職業で治療院を開業している方が多いので、BGMがわりにラジオをずっとかけて

聴いていらっしゃる方も多いので、そういうラジオ番組に出すというのは有効です。それから、ホームページで告知する場合、結構お手上げになっちゃうのは、チラシの画像だけそのままPDFファイルで上げてあるようなの、あれはとてもじゃないけれども視覚障害者自身では読み上げられません。音声読み上げに対応しやすいテキストデータをお願いします。

今、私スマホを持ってきているんですが、どんな感じで聴けるか、フェイスブックで上がっている情報というのを聴いてみたいと思います。少々お待ちください。

あさって実は浜松で私たち朗読会をやるんですけど、そのお知らせですね。

※スマホの音声を流す。

○美月氏　こんな感じで情報を聴くことができるということです。これ今皆さんに聴いてもらいやすいようにゆっくりにしました。

※スマホ音声のスピードを上げる。

○美月氏　ふだんはこのぐらいのスピードで聴いています。これでも私、視覚障害者の中ではスピード遅めで聴いているほうなんです（笑）。

続きまして、その他各地の視覚障害者協会、ボランティアセンター、社会福祉協議会、点字図書館、点字や録音雑誌への掲載など工夫してください。詳しくは別紙資料参照。別紙資料というのは、この後登壇していただきます廣川さんが理事長をやってらっしゃる「TA-Net」という会が中心でつくられた観劇サポートガイドブックという冊子のことです。そこに私もちよっと書かせていただいていますので、ここで別紙資料参照というときはこれです。今じゃなくてもいいので、後でゆっくり見てください。

チケット入手のバリア。アクセスしやすい窓口の確保、ネット予約。説明文とかボタンの名称、全て音声読み上げに対応し、これ本当に辛いんですけど、決して文字認証パスワードによる決定などは利用しないでください。本当に困っています。でも、公共のところでは余りやっていないですよ。ちゃんと文字で情報を出してくださっているところが多いかなと思います。

次、電話の予約。視覚障害者に対するサービス。例えば、最寄り駅からの送迎、それから点字やCDによるパンフの希望、舞台説明会に関してなどが用意されている公演でも、電話の担当者が把握していなくて話が通じないことがあります。結構あります。電話受付担当者に、バリアフリー的配慮に関する内容を周知しておいていただきたいです。障害者の受付電話が別に設定されている場合がありますけれども、そのこと自体を知らない視覚障害者が一般の電話にかけてしまうことがあります。そのときに、電話口に出たオペレーターの方が、専用電話の情報を伝えてくれないことがあるというか、そういう電話が別にあるということを知らないで対応してしまうという残念なケースもあります。私も過去に自分が出演した舞台上、音声ガイドつきだったので、ちゃんと告知したか

ったのに、お友達から誘われて来たという視覚障害者のかたが、音声ガイドがついているということを知らないで、普通に見て帰っちゃったという残念なことがありました。そういうことがないようをお願いできればというふうに思っております。

続きまして、移動のバリア。ガイドヘルパーの割引、劇場最寄り駅からの送迎誘導の手配。視覚障害者は移動困難者でもあります。しかし、それぞれの見え方、見えなさがげんとか、それから失明時期、生活訓練の程度、生活環境などによってその困難さもいろいろです。見えない、見えにくいといっても、少しは見えるけれども、中心だけが見えて周りが見えないからすごく視野が狭い、針の穴から物を見ているようなという人だと本当に歩けなかったりするようですね。その逆の人もいます。それから、生活訓練をどんな環境で受けたかということによっても、その人それぞれの個性が違うので、いろいろ大変なんですけれども、大きく分けると2つ。ガイドヘルパーさんとご来場の方と、それから単独歩行で、お一人でいらっしゃるという方、大きく分けてこの2つですね。

まず、ガイドヘルパーさんとご来場の場合なんですけれども、多くのガイドヘルパーの派遣事業者の規定によって、ガイドヘルパーさんのチケット代は利用者である視覚障害者本人が支払うケースがほとんどです。ですので、ガイドさんの料金を無料にする、ないしは割引料金を設定するというふうにしないと、ここだけですごいバリアになってしまったりします。実際、本当は、よく本人の分を「障害者割引」というふうにするところもあるんですね。昔なんかは特に多かったんですけれども、それは、「いろいろサービスできないよ、音声ガイドとかもできないよ、だからせめて割引にするから許してね」というようなことだったんだと思います。でも、そういうところを努力して、映画や演劇、それから音楽のことでもそうなんですけれども、パンフレットを点字やCDにしたり音声ガイドを入れたりということを整えていった公演だったらすごく楽しむことができるわけですから、障害者自身を割引にする必要というのは、私は基本的にないんじゃないかと思っています。ですが、こういう事情もありますので、ガイドヘルパーさんの分を無料にするとか割引にするという配慮は考えていただけるとありがたいなというふうに思っています。

それから、二人分のチケット代を負担するのが大変という視覚障害者の場合、ガイドヘルパーさんには、自宅と劇場までの送り迎えのみ依頼する人もいます。こういう人の場合は、受付から帰りまでサポートを専属でどなたか、スタッフの方が付いていただけるといいなというふうに思っています。つまり、ぶっちゃけて言ってしまうと、経済的負担か人的負担かという選択になるかと思うんですけれども、考えていっていただけたらと思います。

そして、単独歩行でご来場の方の場合、劇場最寄り駅からの送迎誘導のスタッフを配置する。待ち合わせの場所とか時間は念入りに打ち合わせしておいて、確認し合って、ご本人と担当スタッフの人が当日連絡を取り合えるように携帯番号を確認し合ったりするというのも大事になってきま

す。誘導の仕方は別紙資料参照というふうになっていますけれども、ここでちょっと軽くデモンストレーションしたいと思います。夫、デモンストレーションしましょう。

○鈴木氏 「どちらの手で誘導しましょうか」、「じゃ、右手でつえを持ってますので、左手でつかまらせてください」、「はい、それでは左手を失礼します」。ここまで小芝居なんですけれども、なるべく相手とのすき間を開けないように、相手の半歩前を歩きましょう。そうすると、何かぶつかってくる人とか何かあったときに体を張れるということになります。狭いところは、広がっていると歩みにくいというか通れませんので、こんな感じで歩きます。右に曲がります、左に曲がりますという人結構いるんですけど、肩の角度で大体動く向きがわかるので、右、左は余り言わなくても大丈夫です。そのかわり、段差、高低差は言わないと危ないです。やり方としては、「下り段差です」。これ大事ですね。「段差です」だけだと、上りなのか下りなのかわからないので、「下り段差です」と言って、なれないうちは、誘導するほうがこの（段差の）突端につま先をびたっと当てて心の中で1、2と数えてから、「じゃ、行きます。せーの」というふうにやると息が合っておりられます。ついでにいうと、肩の高さでどれくらいの段差かがわかるので、あ、これくらいおりてるんだなということがわかれば、おりることもできます。上りもやってみましょうか。上ります。「上りの段差です。せーの」。こんな感じです。あとは例えば客席に座ってもらうとき。さっきやりましたね。自分が誘導して入れない場合には、「はい、じゃ、こちらが前の座席の背もたれです。こちらがお客様の背もたれです」とか、あるいは「これの2つ隣まで行ってください」と言うと、2つ隣くらいでしたら行っていただくことができますし、「カニ歩きします」と言ってカニ歩きでこうして座ってもらうこととかもできます。大事なポイントとしては、いなくなるときと戻ってきたときには必ず声をかける。本当に見えないとわからないので、ネタにを使って申しわけないんですけども、先ほどCDオーケーですかと言ったときに、うなずかれてもわからない。こういうことですね。

○美月氏 ありがとうございます。

1つ言えることは、誘導するのって責任重大だというふうに思っちゃうかもしれないんですけども、そこまでひとりで自力で来ているぐらいの歩行能力のある人は、そんなにがちがちに緊張しなくても、割と臨機応変に歩けると思いますので、そのあたりはちょっと気を楽にいただければなというふうに思います。

当日、劇場にて。劇場内、開演前、休憩中の場合ということですね。自力で来場した視覚障害者、それからガイドヘルパーさんが受付から別行動になる視覚障害者の皆さんを、ご希望に応じて誘導するスタッフを配置していただきたいなと思います。このスタッフは誘導だけではなく、チラシやパンフレット、アンケートなどの処理に関してのサポートも行っていたきたいです。膨大なチラシは、持ち帰ってゆっくり読んでもらう人もいれば、自力で読めないので不要だという人もいます。

本当に私なんか「紙ごみの束じゃない？」という感じになっちゃうことがあるんですけども、必要かどうか本人に尋ねてください。これ紙ごみだと言われたからなというふうに勝手に判断して渡さないというのは、それはないかなと思います。後で（帰宅後）ゆっくり読んでもらうという人もいますので、確認してみてください。

自由席の場合、ご本人の希望を聞いて誘導してください。指定席の場合は、ご本人がお持ちのチケットに応じて確実にその座席へ誘導してください。名古屋で起きた残念な事例があります。視覚障害者のおばあさんが大好きな音楽のコンサートに行ってちょっと悲しい思いをしたという話があるんですけど、この件について知らないという人がいらしたらちょっと手をたたいてください。結構いらっしやいますね。大変なんですよ、これ。ちょっと、じゃ、事例を弁護士ドットコムというところでコピーをしてきたので、その文章から読んでもらおうと思います。

○鈴木氏 余り時間がないのでざっくりと。

全盲女性が提訴。コンサートで最後列を強要された。家族は謙虚な謝罪をというふうに求めています。購入した席から離れた別の席に移動させられ、クラシックコンサートを鑑賞することになったとして、視覚障害者の女性が、コンサート主催者を相手取り、慰謝料など約165万円を求める訴訟を名古屋地裁に起こしました。これはどういうことを受けたかという、今のように、ひじにつかまれば歩いて座席に行くことが可能だとスタッフにはちゃんと伝えていました。しかも、席はちゃんとここの席がいい、この席だと音がいいのでここがいいというふうにちゃんと指定をして予約をして、要するに予約席だったにもかかわらず、誘導ではなくて無理やり車椅子に乗せられ、しかも購入した席から離れた最後列の車椅子専用席、最後列の端のほうで、ここで見てください、聴いてくださいというふうに強要されたと。しかも、その際、声もかけず車椅子を前進させたり、おりる際にブレーキをかけなかったりと、案内も手荒だったという。こういうことがありまして、主催者側は、非常に申しわけなく思っていますが、障害を理由に差別的な取り扱いをしたものではないという見解を示して、現在平行線をたどっているということらしいです。

○美月氏 それのお話の中で、途中に書いてあること、こういう事例が増えたら嫌だという話、そこを讀んでください。

○鈴木氏 障害者差別が繰り返されないことと、障害者への理解が広がってほしいということ、これは実際の障害者の方の娘さんの意見です。全盲の高齢者をなぜ1人で行かせたとか、付き添いがいたら問題は起きないとか、事前に連絡すべきだとか批判的な意見もあります。ただ、今回の会場だった市民会館へは、過去に数回、母が1人でコンサートの鑑賞に行ったことがあり問題はありませんでした。障害者は1人で外出するな、どこへ行くにも事前に連絡せよというのが当たり前の社会になるのは怖いと思います。

○美月氏　　そうなんです。そこですよ。行きたいときに行きたいところに行けないのは辛い。本当に。

○鈴木氏　　ましてや予約してた。

○美月氏　　そうそう。ということで、これは、私の中でちょっと結論が出ていない部分としては、それで165万で提訴するかという、そこはやり過ぎなんじゃないかなという気もするんだけど、いや、それぐらいはしないとわからないんじゃないかとか。

○鈴木氏　　謙虚な謝罪があれば提訴しなかったということ。

○美月氏　　というふうにも書いているから、そのところはちょっと難しい問題だなと思って。浜松の朗読会の翌日、名古屋でも朗読会をするので、名古屋の視覚障害者の人たちにも会いますので、地元の反応とかも聞いてきたいなと思っているところです。

　　続きまして、自由席の場合、演劇ならなるべく前の席をお勧めください。舞台に近ければ近いほど、ここ肝心なんです。近ければ近いほど内容の把握が容易になります。私が行く劇団なんかでは、私が行くというのがわかっていたら、じゃ、自由席だけど最前列確保して予約席にしておきますよと言って配慮してくれるところも多いです。そういうことをしてもらえるととても助かるなというふうに思っています。

　　それから、上演時間を告知してください。トイレの利用とかカフェの利用の目安になります。2時間長いな、じゃ、ちょっとコーヒー飲むのはやめておこうとか、それから、今のうちトイレ行っとならう方がいいなとかという判断ですね。あと、休憩時間が入るのかとか、そういう情報を言っとならうとだけいいなと思います。目が見えないと公演中自力で抜け出していくということがすごく難しくなってしまうので、普通の人以上に時間告知というのは大事なことだというふうに思っています。

　　次、上演中のことについての把握できるようにするためのいろいろですね。まず、舞台説明ということなんですけれども、視覚障害のお客さんには一般のお客さんよりも30分から40分ぐらい早めにご来場いただいて、舞台の説明を行うということをしていただくと。本当はうちの劇団なんかは普通のお客さんがいらっしゃる状態で普通の開場時間でやって、その中で、ほかの人たちにも一緒に、こういうふうに説明入れるというデモンストレーションも兼ねてやらせていただいているんですけど、そういう説明があるといいなと思います。無理しない範囲で、毎公演じゃなくてもいいから、公演期間中1回か2回でもいいんですけれども、該当の日時を告知の段階で何日の何時の回だったら舞台説明がありますというふうに言っとならうとだけいただければいいかなというふうに思っています。

　　方法1、客席に座ってもらい、スタッフが舞台上を動いたり音を鳴らしたりしながら位置関係等を説明するということですね。これちょっとやってみましょうか。

○鈴木氏　　ちょっとやってみますが、これは先ほどの前のほうの客席のほうがいいと言ったのと同じ理由で、マイクを使うと位置がわからなくなるので、ここからマイクを切りますので、すみません、字幕の方、お願いします。

私が今いますのが舞台の一番前の真ん中です。奥行きは1歩、2歩、2歩ぐらいで一番奥に来ました。ここからお客様側から見て右側、舞台の用語でいうと上手といいますね。上手のほうに歩いていきます。1、2、3、4、5。ここが一番後ろの上手側ということになります。

○美月氏　　一番舞台の奥ということですか。

○鈴木氏　　ここから役者が出てくることがあります。こんな感じでしょうか。

○美月氏　　こういう感じで、あと。

○鈴木氏　　あとは、舞台の上に長机が2つ置いてありますので、そのように思ってください。本日はありがとうございました。

○美月氏　　はい、そうです。

○鈴木氏　　もちろん、舞台がもうちょっとセットがしっかりしてたり、小道具がいっぱいあったりすると、それを説明するというのもあります。

○美月氏　　これが方法1です。

方法2、実際に舞台上に上がってもらって、舞台セットに触れてもらう。

そして、方法3、方法1と2の合わせわざですね。昨年、新国立劇場でとった方法ですが、体験して感じた結論として、方法1で位置関係を把握した後に2を行う。実際に上がってさわるということをやると、よりイメージしやすくなるようです。ちょっとやっぱりこれやると時間がかかっちゃうので、開場時間よりも早めに来てもらってという方法がいいかもしれません。

続きまして、音声ガイドについてです。

上演中に耳だけで鑑賞してはわからない無音の動き、人の出入り、場面転換などを言葉で説明する配慮です。ほかのお客さんの邪魔にならないよう、必ず音、セリフと動きをモニタリングできる別室からFM送信機等を使ってライブで行う。施設によっては、通訳システムなんかがあるところだったらそういうのを利用してもいいかと思います。舞台上の様子が見られて、音もモニターで来てという別室があったら、そこから電波を飛ばして、ポケットラジオとかのイヤホンつきのもので、片耳に入れていただいて、視覚障害者の人は劇場内でそれを聴きながら鑑賞するという形ですね。音声ガイドのノウハウは別紙資料参照ということで、後でそれも見ていただきたいんですが、ちょっと簡単にデモンストレーションを兼ねて、うちのばっかりばかりのお芝居は特別な音声ガイドなしでもわかるんですけども、あえて今日はこちらのお芝居ので見てみてください。ちなみに聴覚障害の方向けの吹き出しのような字幕というのもついていますので、それも一緒に見てみてくだ

さい。

○鈴木氏 舞台上で視覚障害のふくよかな女性が歌を歌っている。バーテンダーのミスギが戻ってくる。ミスギひっくり返る。正座するミスギ。

○美月氏 ということですね。ありがとうございます。

3つ目、さわれる舞台模型の触察。両手でさわれる範囲の大きさに縮尺した壊れにくい模型をつくって、観劇前にさわってもらうという方法なんですけど、これ本当にちゃんとつくるとかなり予算がかかりますので、事例で幾つか出してますけれども、後でこれちょっと見てみてください。

それから、音声パンフレットの抜粋を用意。さっき聴いていただいたああいう役者の声の部分だけを抜粋したものを編集してICレコーダー等で聴けるようにするとか、あと、これはバリアフリーの公演だよと大々的にうたっている場合には、会場でお客入りの音楽のBGMのかわりにそれを流すという方法もあります。

最後、終演後のサポートとして、開演前と類似するサポートですね。トイレ誘導、物販買い物のサポート、それから終演後ならではのサポートとしてはアンケートの代行記入。指定の場所までの誘導というものもあります。サポート中は余り事務的な対応にならないよう、今後の公演情報などもさりげなく伝えてください。

ばっかりばっかりのバリアフリー的取り組み。これはやっちゃいましたね（笑）。ということで、最後結びに行きたいと思います。

余り最初から無理はしないで、できることから始めてください。本当に普通の公演なんだけど駅まで送り迎えしますよとか、そういうことだけでもいいかもしれないし、できることだけやって、できないことは無理しないで、でも、できないんだということはちゃんと伝えてほしいというところですね。面倒を見なくちゃならない、義務などとは思わずに、同じエンターテイメントを楽しむ仲間をふやすための工夫というふうに捉えて取り組んでいただければ幸いです。

○鈴木氏 一個補足なんですけど、この手のサポートですとかサポートの相談、あるいは誘導の研修とか、サポートガイドブックにうっかり、僕ら演劇結社ばっかりばっかりのことを書き忘れたので、何かありましたら、私どもまでご連絡いただければ、サポートの相談ですとか研修とかできますので、よろしくをお願いします。

○美月氏 あと、公演チラシ、うちのばっかりばっかりの点字の入っているチラシ、これはただ点字が入っていない普通のチラシというのは完成品じゃないとみなしているの、うちで配るのは絶対この形というお芝居のチラシですね。よかったら回して見てください。

皆さん、どうもありがとうございました。

○間瀬氏 ありがとうございます。わかりやすい実演も含めて、ばっかりばっかり美月さんでした。あり

がとうございました。

それでは、今、次の準備をしていただいております。

健常者でははかり知れなかったことが随分具体的にお話をいただけたのではないかなというふう
に思います。

今、皆さん拍手なさいましたよね。廣川さんには拍手の音は聴こえません。さあ、どうしまし
ょう。ちょっと練習しましょう。拍手。これが耳のご不自由な方への拍手でございます。ぜひ覚えて
帰ってください。

じゃ、廣川さん、お願いします。

○廣川氏 こんにちは。ただいまご紹介いただきました廣川と申します。拍手の方法、皆さん覚えていた
けましたか。今、見えない方も一緒にいらっしゃいますので、この拍手と手の拍手と両方やって
いただくとちょうどいいかなと思います。ありがとうございます。

所属団体の名前がこちらに書いてあります。ちょっと長いので短くしてTA-netと言っています。
手の動きを。皆さんもご一緒に。左手の人差し指と親指を立ててあとは閉じます。これに右手人指
し指をくっつけるとAみたいな形になりますね。そしてそれをくるっと回してTA-netという手話に
させていただいています。今日一つ覚えていただけましたね。ありがとうございます。

私たちの団体は、みんなで一緒に舞台を楽しもうということを目指しています。設立して6
年目になります。おかげさまで少しずつ少しずつ皆さんの理解も広まって、この講座にもたくさん
の方興味を持っていらしてくださっています。とてもうれしいなと思っております。間瀬さんのお
かげでいろんなところに行ってお話しさせていただく機会も増えております。そのことも大変うれ
しく感じております。

先ほど目の見えない方について、美月様からお話がありました。私は聴覚障害者について話をさ
せていただきます。

聴こえない、聴こえにくいといいますがけれども、別の言い方として、手話を使う人、そして文字
を使う人、補聴器を使う人、また振動を感じる人と考えてみてください。サポートの方法はどうし
たらいいのか。例えば、手話を使う人に対しては手話通訳、そして文字を使う人には字幕、補聴器
を使う人にはヒアリンググループ、振動を感じる人には体感音響システムというのがあります。今日
は上の2つですね。その上の2つについてお話しさせていただこうと思います。下の2つについては
サポートガイドブックのコピーをお配りしましたので、そちらをご覧くださいと思います。

まず、字幕の例をお話しさせていただきます。

皆さんご存じの方もいらっしゃると思います。歌舞伎座が、6年くらい前に新しく変わりました
ね。そのときに常設の字幕が1階と2階の席につきました。これは毎日の公演で使うことができます。

特に予約も必要なく、ちょっと料金は支払いがあるんですけども、いつでも使えるというのがとても魅力的なところですよ。聴こえない人もたくさん行って歌舞伎を鑑賞しています。私たちもその日本伝統の歌舞伎を楽しめて大変喜ばしいことだという話も私の耳に入っております。

続きまして、公立の東京芸術劇場です。こちらは池袋にある劇場なんですけど、サポートを大分前から熱心にやってくださっています。字幕のサポートを歌舞伎座と同じシステムを使って行っています。ただ、ここは毎日ではなくて、公演期間の中でいつ使えるというのが決まっています。例えば1日とか2日とか決まっていて、そのサポートを使うことができるという形になっています。機材を持ち込むという準備もありますので、前もっての予約が必要になります。ただ、先ほどとは違ってこちらは無料で借りることができます。

こちらは全体の投影という形の字幕で大きなスクリーンに投影されます。右のほうに大きい字幕が出る。オペラみたいな方法です。字幕のシステムと同じ会社でつくっています。皆さんお調べいただければそれもわかっていただけると思います。

スマホのアプリを使って字幕を見る方法を次にご紹介します。どうぞ皆さん後で調べてみてください。

皆さんご存じかどうかわかりませんが、劇団四季は昨年からは字幕をつけての公演を始めました。札幌と福岡、この2カ所の劇場で眼鏡型の字幕の機器を貸し出ししています。これも細かいことを調べていただければおわかりいただけます。一つうれしいと思ったことは、こちらはいつでも借りられるということです。日にちが決まってこの日だけというのではなく、公演の間でしたらいつでも申し込んで借りることができるんですね。チケット申し込みのときに字幕の機器を借りたいということを申し込んでおけば、当日準備していただけます。あと、こちらは、機器を借りるお金は、障害者は無料で借りることができます。例えば外国人の方、耳が聴こえる人が字幕が欲しいといった場合には、有料で貸し出すということになっています。そういう形でやっているという劇団四季のご紹介でした。

もう一つ、おもてなしガイドという字幕のアプリです。実証実験中で、そろそろ今年あたりから一般になるのかなという話を耳にしています。現場でも使える試みがあちこちで始まっています。

今までは演劇では前もってセリフなどをデータ入力しておいて、タイミングを合わせて操作をしていました。ポン出しというんですけども。こちらのものはそうではなくて、ライブで話してるところ、例えばお笑いとか、その場でいろいろなトークをしているような、そういったイベントの場で、リアルタイム字幕で入力をして、スクリーンに出していくという方法です。UDトークで今日はやってますけれども、それは一人が講演でしゃべってる場合にはちょうどいいシステムです。

ただ、実際のお笑いとかたくさんの方が同時に話している場合には、UDトークというのは対応し切れない面がございます。ですので、そういった場合には人が聴いて入力をするというような方法になります。こういうことをやっている業者もあります。

もう一つ、映画の字幕をつくるNPO法人があるんですけれども、字幕を開発、実験をしてみたというところで、β版となっています。お試して、インターネットで公開しています。この方法も一応今のところは無料で貸し出すという、使えるという状態になっています。非営利を目的にやっているものですので、ホームページで調べていただければ詳しいことはわかるかなと思います。

字幕のつくり方を紹介した7分くらいの映像をYoutubeで見ることができます。ぜひ見てください。「字幕と一緒につけてみたい」という動画では、聴こえない人はどうやって字幕を楽しんでいるのか、字幕がついたらどう感じたのかといったことを紹介しています。これも三、四分くらいです。ぜひご覧いただきたいなと思います。この2つは聴こえない映画監督の方をお願いをいたしました。

次、字幕の方法で、先ほど美月さんからご紹介いただきましたが、吹き出しの形の字幕という方法もあるんです。このように4人がしゃべっているセリフが字幕で出ていますが、吹き出しに色をつけて、誰がどのセリフをしゃべっているのかわかるようにちょっと工夫がしてあります。おもしろいですね。衣装の色に合わせて字幕の色をつけています。美月さんの場合は衣装がピンクでしたので、吹き出しのところもピンクでくくってあります。このように、色を見て、この役は誰だなというのが結びつくと、字幕を見ても誰が話してるんだとすぐピッとわかって楽しめるということになります。

ここまでのところでご紹介しました字幕についてですけれども、業者がやっているところ、またNPOが開発しているところ、また自分たちで手づくりでやっているところなどいろいろあります。なので、皆さんももし今後字幕を入れたいと考えたときには、自分たちの予算に合わせて、また時間とマンパワー、その辺を判断して選んでいただくといいかなと思います。

NPOの場合には、先ほどご紹介しましたように、自分たちで字幕をつくれるということですね。普通にパソコンができる方でしたら字幕ができるのではないかなと思います。コツがわかればすぐおもしろくつくれると思います。そういうふうに皆さんおっしゃっています。お金がなくて時間とマンパワーがあれば、まず試していただくということもいいかなと思います。

もう一つ、ぜひこちらをお願いしたいと思うんですけれども、モニターの方たちの意見交換会ですね。こちら何かといいますと、字幕をつけました。それを本番の前にゲネプロのときに聴こえない人たちに実際に来てもらって意見、感想を話してもらうことでさらに、字幕の効果をアップすることができます。このときには、字幕をつくる人も話に入っていただいて、意見を聞いていただいて、どうしたらみんなに通じるのかと逆に質問して相談。そのところもぜひやっていただければと思い

ます。

一つここで、ちょっと話がそれるんですけども、美月さんの場合は声で説明をする必要があります、パワーポイントを使うことはありません。ただし、聴こえない人は、やはり見る人なんですね。見ることが大事なので、文章とか写真とか映像などは全て見て理解するというところがあります。美月さんにはこの写真の様子が多分わからないので、この写真の説明を鈴木さん、よろしくお願いたします。皆さんもこの写真をどのように言葉で説明するのか、一緒に考えていただけたらと思います。

○鈴木氏 キャプションとしてモニター意見交換会とついている。舞台の下の客席のフラットなところに椅子を車座に配置して、真ん中に置いてあるのはカメラでしょうか。何人もの人が意見を交換して、その中に手話通訳の人がいます。こんなところでしょうか。

○廣川氏 美月さん、聴いていかがでしたか。

○美月氏 どういう写真なのか大体想像できました。

○廣川氏 ありがとうございます。写真などの説明をするときにはやはり言葉の使い方など、皆さん参考になると思います。このように、何か機会があれば、ぜひ写真などの説明を皆さん自分の言葉でしてみてください。

今新しいサポートの機材がいろいろできています。眼鏡つき字幕、スマートグラスなど、いろいろ言い方はあります。映画業界では眼鏡つき字幕は普及し始めています。その技術を舞台関係にも使えるように、実際にそういう動きが始まっています。ただ、まだまだこれからというところなので、いろんな会社が頑張っていて開発していますけれども。去年、東京国際映画祭であったイベントで、開発状況が紹介されました。まず一般で売っていますエプソン製ですね。また、いろいろありますけれども、それぞれ性能があります。鈴木さん、美月さんへの説明をお願いします。

○鈴木氏 客席に聴覚障害者の方3人座っています。舞台を向いているものと思われます。眼鏡の前に小さい機械がついていて、レンズに投影するような形でしょうか。夢中になって見ている様子がかうかがえます。

○廣川氏 ありがとうございます。そうですね、なるほど。どうやって説明するのかなと思いましたけれども、わかりやすかったと思います。この眼鏡の技術がいろいろできてきているんですけども、使用者が増えれば眼鏡の開発もさらに進むのではないかと、思っていますので、ぜひ皆さん試していただければと思います。

文字はグラスのところに出ているのではなくて、舞台のところで字幕が浮き上がって見えるという感じ。なので、顔を横に向けると文字だけが見えていたりするんですね。ちょっと不思議な感じがするんですけども。おもしろいです。

次は手話についてですね。舞台の手話通訳の方法があります。これは先ほど前に出て手話通訳していましたが、それが一般の講演の場所でしたらあのような手話通訳の方法になりますが、舞台の上での手話通訳は全く別物になります。理由は、こちらご覧いただくとおり、右側に赤いドレスを着ている女性がいますけれども、左側にショートパンツをはいている女性がマイクを持って何か歌っています。赤いドレスを着ている右側の女性が手話通訳になります。先ほどは左側に立ってスーツを着て、手話通訳がまじめな感じでした。舞台通訳の手話通訳の場合は作品の雰囲気に合わせて衣装を着るという方法になります。少しだけ映像をご紹介しますと思います。

舞台の右側の上手のほうに手話通訳が立って、演技に合わせて手話通訳をしています。2人の会話のときにも会話をロールプレーという形で、左の人のほうで、右の人のことは右のほうで、1人で2役通訳しています。その場に行って、手話表現を考えてあらかずということではできません。なので、前もって役者たちと一緒に打ち合わせをして、手話表現も考えて、稽古のときから参加してどういうふうにするのか練習する必要があります。

実際に聴こえる人、聴こえない人からこのような意見をいただきました。聴こえる人からも、ろう者からも、なるほど、手話通訳がついておもしろかったという意見をたくさんいただきました。ただ、手話通訳に関しては技術がまだまだこれからという部分もありますので、その意味では、機会が少ないものですから、もっともっと技術を磨く機会が必要だと思います。日本財団から助成を受けまして、去年、横浜、札幌、大阪の3カ所で養成講座を開きました。それぞれ6人、合わせて18人を養成しました。現在、実践の場を求めて、そこで通訳をさせてもらいたいと思っています。

その1つがこちらですね。これは子ども向けのお芝居なんですけれども、白雪姫ですね、左側に帽子をかぶっている女性がいます。雰囲気に合わせて衣装も自分でつくって手話通訳をしています。劇団の人たちからも、黒いスーツではなく、そのお芝居に合わせていただいた衣装だったのでうれしかったという意見もいただきました。また、劇団の人だと思ったという声も別の方からいただきました。とてもいい取り組みだと思います。

もう一つ、この間の土曜日、日曜日に東京の東中野の劇場でやりました。もしかして新聞で読んだ方もいらっしゃるかもわかりませんが、ヘレン・ケラーをテーマにした公演でしたけれども、上手と下手にずっと立っているのではなく、劇の進行に合わせて通訳も動き回る、役者の近くに立って手話通訳をする、または効果を考えて、あえて離れた場所に立って通訳をする、階段の上のほうに立って通訳をするとかいろいろ。または役者と一緒にお芝居をするという場面もありました。東京新聞にこの記事は載ったんですけども、インターネットで読めるので見ていただければと思います。字幕も全体投影されていました。あと、音声のガイドも皆さんに聴こえるようにつくってありました。

次は受付、告知の工夫が必要というところですね。ぜひお願いしたいのは、このように筆談できますというプレートの表示です。聴こえない人たちは、自分が話しかけていいんだと安心できます。このマークは、全日本ろうあ連盟のホームページで公開されていて、無料で自由にダウンロードできます。ぜひこちらのマークを使っていただければと思います。

もう一つです。名古屋市の、先ほど名古屋市のイメージちょっとどうかなというお話ありましたが、コミュニケーションのボード、支援ボードというのがあります。ろう者の意見を聞いて一緒につくったという支援ボードです。よく使われる日常会話がたくさん載っています。これも無料でインターネットからダウンロードできます。

チラシに明記するというのも大事なことです。これは滋賀県の団体が開催した音楽祭です。どんなサポートがあるかということきちっとチラシに載せてあります。ホームページにも同じように明記しています。

もう一つ、新国立劇場というところ。先ほど美月さんのほうからもご紹介がありましたように、こちらでも昨年始めたサポートです。いろいろなお話をした結果、いろいろやってみていただいたというのがこちらになります。例えば告知動画。今、各地で告知の動画をつくっているところは増えていますよね。けれども、その中に字幕は大変少ないんじゃないかなと思われます。字幕をつけて、さらに手話通訳がワイプで入っています。正直びっくりしました。でも、本当にうれしいな、すばらしいなと思いました。これもインターネットでぜひぜひ見ていただければなと思います。

劇場の入り口にわかりやすくサポートしていますよということがはっきり出ているという例です。どのくらいの大きさかというのをわかるように私が隣に立ってみました。これがとても小さいところもあるんです。それよりも大きな看板がぼんと出ていたほうが、一般の、使わないお客様も、今日はこういったサポートがあるんだななんていうことがわかります。もしかしたら聴こえない人とか目の見えない人も友達の中にいるかもしれない。そういった方々に情報も伝えられるし、一緒になんていうこともできるかもしれないですよ。そういった行動につながりますので、ぜひこういったPRも堂々と自信を持って、していただきたいなと思います。

機器の貸し出しコーナーでは手話通訳は待機して対応してくれます。もちろん手話ができない聴こえない方に対しては筆談で対応するというところですね。またこちら、先ほど名古屋の例を紹介したんですけども、それを見て、参考にして、自分たちでつくったコミュニケーションボードです。おもしろいですね、なかなか。

アナウンスされる内容をプリントにして配付。なぜならば、アナウンスは字幕も出ますけれども、すぐ消えてしまいますよね。ですが、ずっと見ているわけにはいかないです。聴こえる人の場合は、動き回ったりしていても館内のアナウンスは聴こえますよね。けれども、聴こえない人は機材をず

っと集中して見ているわけにはいきません。こういった案内を最初にくざると、前もってわかるというよさがあるわけです。

なかなかこういうことは気づかない方が多いかもしれないんですけども、パンフレットにいろいろスタッフの名前書いてありますよね。そこに観劇サポートときちっと載っているという例です。観劇サポートのスタッフ一人の名前がきちっと載っているという、お客様は見てわかるという形になります。私たちにとっても大変うれしいことです。

劇が始まるのが近づいたときにベルが鳴りますよね。新国立劇場は、ベルだけではなくて、ライトの照明をつけたり消したりしていたのでびっくりしました。これは聴こえない人の集まりのときには、何か始まる時、みんなに注目してほしいときには電灯をピッピッピッという感じでつけたり消したりするんですね。それを劇場で、特にお話ししたわけではなかったんですけども、それをやっていたということで、どうしてですかと聞きましたら、オペラの場合にはベルの音を出さないんですと。オーケストラ以外の音は出さないんですということで、もともとこうやって照明を使ってお知らせするという方法を使っているということで、それでやってみたということでお話をいただきました。ぜひぜひ今度その方法を続けてくださいねと私はお願いをさせていただきました。

告知する方法としてホームページがあります。いろいろなサポートをやっている、劇場の企画、お知らせを載せるサイトがあります。5年前につくって、おかげさまで5年間で700を超えるご利用をいただいて、掲載は無料です。ぜひぜひ情報を入力して写真、チラシなどをアップさせていただきます。私どもスタッフの中で内容を確認させていただきまして、もしこれがちょっと説明が足りないなと思ったところは、ちょっとアドバイスなどをさせていただきながら、よい形にして出すようにさせていただいています。また、メルマガでもご紹介できますので、皆さんにお配りしたチラシをご覧いただきたいと思います。サポートの内容を細かく選べるようになってあります。

次、もう一つ事前説明、また勉強会、トークなどについてちょっとお話しさせていただきます。勉強会というのはたくさんあると思うんですけども、そういうところでも手話通訳をつけてろう者も一緒に楽しんで勉強に参加できます。またこちら、屋外でも、文字のサポートはなかなか難しいと思っていたんですけども、鉄道の昔の駅弁を売るような箱になりますね。歩きながら文字のサポートをしていくというのをやってみたという例の写真です。

これは始まる前に内容を手話で説明をするというものです。ろう者の中には日本語の読み書きが余り得意ではない方もいらっしゃいます。そういう方には手話で説明すると本番を見たときにもよくわかって楽しめるということ。ろうの俳優さんの手話でわかりやすい説明になっています。

最近トークショーって増えているなと思います。こちらでも手話通訳をつけると大変楽しむことができます。これは2人で話すトークショーですので、通訳も2人立っているという形の通訳です。ど

っちが話しているのか大変わかりやすい対応になっています。

また、UDトークですね。自分でこうしてつくることもできますし、修正することもできます。自分でやることができますので、普通にパソコンができる方でしたら誰でもできるんじゃないかなと思います。

一つここでちょっと、最近あっと思ったことをご紹介しますと思います。劇の本番自体は楽しめるんですけども、劇の始まる前と終わった後のことはついうっかりして気がつかないような方があちらこちらで見受けられるかなと思います。ぜひ何かつけるときには本番の劇の前と後とかも頭の中にちょっと入れて準備していただくと、もっともっと楽しめる、また行ってみようか、また行こうかということにもつながるかなと思います。

こちら、今度パンフレットです。今日ちょっとコピーをしてお配りしていますけれども、カラーでホームページからは無料でダウンロードできます。今日お配りしているのは白黒なんですけれども。本の形を希望する場合には、送料負担していただければ無料でお送りできます。昨年3月に全国各地、1,300ぐらいの劇場にお送りしています。もしかしたら皆様のところにも届いているかもしれせん。ご確認ください。

こちら研修です。先ほど美月さんのご紹介もありました研修のご依頼もたくさんいただきまして、劇場のほうとかに行かせていただいています。できればろう者と目の見えない者、耳の聴こえない人一緒に研修していただけると、もっともっとわかりやすい研修ができるんじゃないかなと思います。私は地元の聴こえない人と目の見えない方に、ご協力をいただいて講座を進めています。なぜならば、結局その場でサポートを受けるのは地元の方ですよ。実際にその方々に来ていただいて関係づくりをしていただいて、サポートをするときには来てもらえるように。そんな雰囲気づくりというのを考えてやらせていただいています。

最初から100%というのは目指さない。100%できないからやりませんではなくて、今これはできない。将来のことは、また別の話です。できないことは、きちっとできないことを出させていただく。先ほどの例でいいますと、トークショーには通訳はありませんと最初からきちっと打ち出してくださいってれば、残念な思いはしなくて済みましたよね。何らかの方法で、例えばその部分だけ手話通訳とか友達を連れて行くか、聴きたかったトークショーも手話通訳をつけてほしいと交渉するとか、後から相談もできます。どういった方法でできるのか、お互いに寂しい気持ちにならないようにやっていただければなと思っています。

そして、続けることです。一回やってみて、ああ、疲れた、大変だった、もうやらない、のところも実際あります。そうではなくて、続けること。ぜひぜひできることから少しずつ少しずつ続けることがとても大事なことだと思います。ぜひお願いします。トライ・アンド・エラー、やってみ

てわかったこともたくさんあると思います。ですから、やってみて失敗したから、ああ、もうだめだ、やらないではなくて、どうして失敗してしまったんだろうと考えて、次に進めていくということが大事なことかと思います。

そういうことで、皆さんぜひ、大変だ、難しいと思わずに、少しずつぜひぜひやってみていただきたいなと思います。全国の劇場でお会いできることを楽しみにしています。

○間瀬氏 ありがとうございます。廣川さんからの話をいただきました。

もう予定時間も来てしまいましたので、最後にまとめだけさせていただいて終わりにしたいと思います。

今お話あったサポートのガイドブック、私の手元にあるこれはホームページから打ち出したものです。本物はA5なんですけれどもね。これぜひTA-netさんのホームページからうちだして、職員の皆さんにぜひ一読をしていただけると意識が少し変わるかもしれません。ぜひお願いをしたいと思います。

あと、美月さん、それから廣川さんのお話を伺って思ったことは、技術的にはいろんなものが早くどんどんと進み始めてはいますが、まず我々の心の問題が一つあるなという事、もう一つは、全てを一遍にやろうとしない、できるところから一つずつやっていきましょうという事、皆さんの施設の中で、まずできることからはじめましょう。今日の講座は、障害がある方に何が必要なのかわ知ることがまず必要だろうと思います。それで、我々の勤務している施設で、障害のある方もない方も一緒に舞台を楽しめるよう情報をお届けしたいと思っております。

究極の目的は、障害のある方、ない方、高齢者、外国の方、全ての方が劇場に笑顔で出入りをして、楽しんで帰っていただける、そういう空間になること。これからの地域の劇場・音楽堂等に求められていることだろうと思っております。

私の不手際でちょっとオーバーしてしまいました。今日舞台の上に上がっていただきました廣川さん、それから美月さん、鈴木さん、再度拍手をお願いします。ありがとうございます。

それから、今日の手話通訳のお二人の方がこちらにいます。どうぞお立ちください。ありがとうございました。

それから、UDトークの運用を行ったお二人の方がお見えになっています。ありがとうございました。